

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課： 道路局 高速国道課

担当課長名： 横田 耕治

事業名 四国横断自動車道 <small>とくしま とくしま なると</small> 徳島～徳島JCT～鳴門JCT	事業区分 高速自動車国道	事業主体 日本道路公団
起終点 自：徳島県川内町大字鈴江 <small>かわうち すずえ</small> 至：徳島県鳴門市大津丁大代 <small>なると おおつ おおしろ</small>		延長 1.1 km
事業概要 四国横断自動車道は四国縦貫自動車道とともに、四国4県の一体化を進めるとともに、沿線地域の振興に重要な路線である。		
H11年度事業化		H6年度都市計画決定
H 年度用地着手		H 年度工事着手
全体事業費（有料） 1,328億円		事業進捗率 0%
供用済延長 - km		計画交通量 5,200～5,300台/日（有料）、6,100～13,700台/日（無料）
費用便益分析結果（有料）	B/C (事業全体) 1.64 (残事業) 1.64	総費用 (残事業)/(事業全体) 785/788億円 (事業費: 765/767億円) (維持管理費: 21/21億円)
費用便益分析結果（無料）	B/C (事業全体) 2.50 (残事業) 2.51	総費用 (残事業)/(事業全体) 771/774億円 (事業費: 761/763億円) (維持管理費: 11/11億円)
事業の効果等（有料） ・指標2（新幹線・空港等幹線交通網への利便性が高まる） ・指標3（高度な医療施設までの搬送時間が短縮される） ・指標4（拠点都市間を連絡し、相互の連携が可能になる）		総便益 (残事業)/(事業全体) 1,288/1,288億円 (走行時間短縮便益: 1,174/1,174億円) (走行費用減少便益: 79/79億円) (交通事故減少便益: 36/36億円)
関係する地方公共団体等の意見 当該区間が整備されると、徳島自動車道を経由して、愛媛、高知の両県全域からの関西圏への最短ルートともなり、本県だけでなく四国全体の広域的にみても大変重要な区間であると言えます。		基準年 平成15年度
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 将来の社会経済状況の変化に対応した将来交通需要、及び、長期的な道路計画の検討に資する2050年までの推計を目的に、前提となる社会経済指標等を見直した結果、全車の総交通需要を下方に修正。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 現在、幅杭設置中。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 今後も引き続き幅杭設置の推進を図るとともに用地買収に着手する予定。		
施設の構造や工法の変更等 新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。		
対応方針 事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図		
供用中はH15年度供用予定を含む。		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの、
 （バックデータ等についてはインターネットで公開）